

# 広域連携SDGsモデル事業計画

日本で最も美しい村デジタル村民の夜明け事業

鳥取県智頭町

(静岡県松崎町)

## < 目次 >

(1) 地域の概要.....	2
(2) 課題・目標設定.....	3
(3) 事業概要.....	4
(4) 事業による相乗効果等(新たに創出される価値).....	6
(5) 執行体制.....	9
(6) 多様なステークホルダーとの連携.....	10
(7) 自律的好循環の具体化に向けた事業実施.....	10
(8) スケジュール.....	11

## (1)地域概要

(智頭町) 人口:6,491人(2022年4月30日時点)

鳥取県南東部に位置し、岡山県との県境に位置する。総面積の93%が山林で占められ、森林セラピー<sup>®</sup>や森のようちえんなど独自の取り組みを展開する。20年に渡り住民自治活動を展開し、2019年度にSDGs未来都市へ選定。2010年「日本で最も美しい村」連合加盟。



(松崎町) 人口:6,052人(2022年4月30日時点)

静岡県伊豆半島南西部に位置し、北・東・南の三方を天城山系に囲まれ、西は駿河湾に面している。昭和53年から「花とロマンの里」をシンボルテーマに、豊かな自然や歴史・文化などの地域の特性を生かした取組を進めている。2013年「日本で最も美しい村」連合加盟。



## (2) 課題・目標設定

ゴール 9 ターゲット 9.1  
ゴール 11、ターゲット 11.a  
ゴール 17、ターゲット 17.17



令和 2 年度国勢調査における智頭町の前回の調査からの人口減少率は-10.2%、松崎町は-11.7%と、それぞれの県平均値を大きく下回っており、同調査における各町村の生産年齢人口、老年人口の割合からは過疎高齢化の進行が伺える。そのような各町村において、持続可能な地域を活動を展開するための地域活性化、移住定住促進、都市部への魅力発信は共通の課題である一方、豊かな自然環境や文化的資産を有し、「日本で最も美しい村」連合加盟村というブランド力を共有する強みを持つ。

それぞれの地域が持つかけがえのない環境や脈々と継承されてきた歴史・文化を保つことと、先進的な DX 技術を融合し、町村外部に対して強力な魅力発信を行い、得られる関係人口や獲得される外貨を地域内へ還流させる仕組みを形成する。

この仕組みは地域内のサービスや資源の獲得権や所有権及び取引履歴をデジタル上で相互管理・運営することで、従来各地域内の公共、民間が個別に行っていた商取引を集約し、新たな資産(例えばデジタルアート)やサービスの追加、ルールの改正、付加価値の創造と稼働の自走を促すことから、従来の中央集権的なシステムで求められていたような人的リソースを大幅に軽減しつつ各地域内の経済を自律的に好循環させる。

一方で、それぞれの自治体が抱える「担い手不足」「後継者不足」によって引き起こされる地域産業や伝統的活動、イベント等の途絶、断絶を、本事業によって呼び込んだ「デジタル村民」と地域住民とが智恵と工夫を合わせて食い止め、発展させる一助とする。

各地域において公共・民間問わず魅力的な提案が次々に生まれ、育ち、広がるこの事業が、小さくとも賑やかな過疎地における新しい社会システムのモデルとなることを目指す。

### <智頭町にとっての課題と目標設定>

智頭町は、江戸時代から続く林業を基幹産業とし、吉野・北山に並ぶ歴史ある林業地として栄えたが、昭和 30 年代をピークに人口減が続き、林業や地域商業も衰退の一途をたどっている。そのような中で平成に入り、地域住民主体でのまちづくりを続けた結果、森のようちえんやタルマーリーなどの外部への発信力のある取組や企業誘致に繋がっている。

今回の事業においては、デジタル村民と地域住民とを深く結びつけ、第 2、第 3 の森のようちえん、タルマーリー誘致の創出を目標として掲げる。

### ＜松崎町にとっての課題と目標設定＞

松崎町が誇る石部の棚田は、江戸自体から昭和 30 年頃まで連綿と続いた水稲耕作の歴史とともに築き上げられてきたが、度重なる災害や、高度経済成長期の減反政策、農家の担い手不足により荒廃の一途をたどった。そのような中で平成に入り、かつて地域の活気の源であった棚田の復元・保全の気運が高まり、現在のオーナー制度へ繋がっている。

今回の事業において、デジタル村民の権利としての「オーナー権」を創設し、従来の制度と併設することで、新たな関係人口とのつながり創出を目標として掲げる。

## (3)事業概要

### (事業名)

日本で最も美しい村デジタル村民の夜明け事業

### (事業概要)※150 文字

ブロックチェーン技術に裏付けられたスマートコントラクトを構築し、DAO 方式で管理する「デジタル村民コミュニティ」を創設する。

各町村が持つ様々なコンテンツを NFT として発行、村民のインセンティブを提供することで、関係人口の増加と地域課題解決・経済循環の基盤とし、過疎地における新たな社会構造を形成する。

### (事業による全体最適化の概要及びその過程における工夫)

ブロックチェーン技術と DAO 方式を採用することで、各地域が保有する資源やサービスの権利、取引履歴の管理やルールの変更、追加などを厳正かつ正確に行うことができ、相互承認による意思決定のプロセスは、権力の分散とシステムの自走を促すことで過疎地町村の人的リソース不足を解消し、業務の最適化を図ることができる。

また、インセンティブに各町村独自のストーリー性(森林、河川、海洋などの自然環境保全や伝統文化を守り伝えて行くことの重要性)を織り交ぜることで、デジタル村民が参加することの意義やメリットを可視化し、ネットワーク上で美しい村と出会い、地域住民とのつながりを経て「実際に訪れたい」気運を喚起する仕掛け作りを創出する。

さらに、NFT 購入者特典として日本で最も美しい村連合の「ファンミーティング」に参加し、連合加盟町村とそのファンで構築される DAO での発言権や投票権を付与することで、地域課題に繋がる事業提案や事業連携が様々なシチュエーションにおいて発現することを想定している。

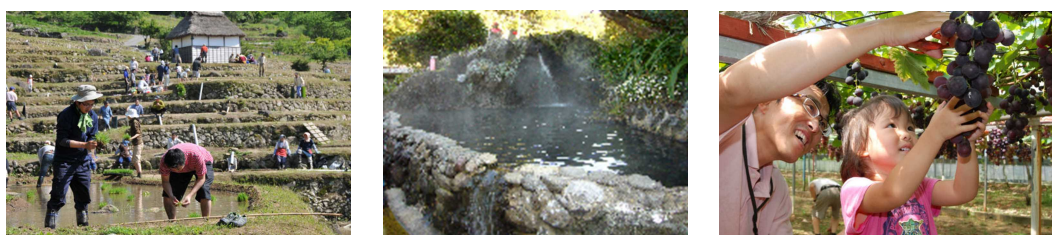


<インセンティブに付与する各地域のストーリー>

智頭町・・・みどりの風が吹く“疎開”のまち。江戸時代から続く美しい人工林と重要文化財石谷家住宅を中心とした重要文化的景観、鳥取砂丘を育む千代川の源流の森、そこに息づく生活商業の数々は、都会では決して再現することができない日本の宝です。その一部をちょっぴりお裾分け。



松崎町・・・花とロマンの里。天城山系のふところ、駿河湾越しに富士山と南アルプスを望む石部の棚田、昔の趣を漂わせるなまこ壁の重要文化財岩科学校と旅の疲れを癒やす温泉郷は、住んでいる人たちが誇りとする日本の宝です。その一部をちょっぴりお裾分け。



<地域課題解決に繋がるストーリー>

デジタル村民版百人委員会・・・NFT 購入者に参加権を付与し、地域活性化や地域課題解決のためのアイデアに対する予算折衝を直接町村執行部へ行うことが可能となる。既存の住民組織や百人委員会部会と連携したり、NFT 購入者同士でメンバーを集めて提案し、予算を付ける仕組みづくりを行う。

デジタル 1/0 村おこし運動・・・住民主体で地域経営を目指す集落や地区のリソース(旧校舎等拠点施設、自治組織等)の使用権や参加権を付与し、事業展開や研究フィールドとして活用する。インキュベーションの場を提供する。



智頭町百人委員会



2030松崎プロジェクト  
ワークショップ

## (4)事業による相乗効果等(新たに創出される価値)

### (4-1)経済⇔環境

KPI(広域連携SDGsモデル事業による 経済⇔環境における相乗効果等)	
指標:NFT 発行数(アウトプット)	
現在(2022年6月): 0件	2024年: 20件

「日本で最も美しい村」連合に加盟するという事は、古き良き地域資源を持つ公共団体等にのみ名乗ることを許されるブランドである。ブロックチェーン技術で安全性が担保され、発行される環境系 NFT は、それぞれの自治体が保有するかけがえのない環境が、デジタル村民の経済活動により確かに保持されていることを証明するものであり、参画自治体やデジタル村民増によるさらなる相乗効果が期待される。

環境系 NFT とは、各地域が保有する森林、棚田、果実栽培などの自然環境をフィールドとして提供されるサービスやコンテンツを優先的に体験できる権利等を発行するものであり、購入することで割引や追加オプションなどのインセンティブが得られ、販売収入をもってサービスやコンテンツの運営、環境保全活動の維持を想定している。

一例として、町村の森林の一部所有権を NFT として発行し、購入代金を地域の森林施業者へ支払い、間伐・除伐等の手入れを行い、インセンティブとして、発生する薪やウッドチップ等を購入者へ定期的に送付するなどの取り組みが想定され、薪ストーブや木質ペレット型ストーブ等の販促に繋がるため、脱炭素の取り組みとしての性質を併せ持つ。

また、デジタル村民手帳を発行し購入金額の一部を各町村の環境保全事業へ充当する等も検討していく。

### (4-2)経済⇔社会

KPI(広域連携SDGsモデル事業による 経済⇔社会における相乗効果等)	
指標:デジタル村民登録者数(アウトカム)	
現在(2022年6月): 0人	2024年: 1,000人

「美しい村」という共有された価値観に賛同する関係人口をデジタルスペースで確保するという新しい社会制度の創出と、その中で発行される NFT インセンティブは、本事業に参画する自治体の経済的な発展を促し、村と村、人と人が連鎖的につながる相乗効果が期待される。

NFT インセンティブにより各町村の様々なサービスやコンテンツの購買意欲を喚起し、関係人口の増加は各地域の人流、商流の増につながる。村と村、人と人の連鎖は新たな需要を生み出し、それが NFT として供給され、更なる村民を呼び込むというスパイラルを形成し、こ

れまでに無かった社会モデルとなることを目指す。

各地域において様々なサービスを提供している商工業者や住民自治組織に携わる多くの地域住民は、この DX によってもたらされる関係人口の増と、新たな手法による経済循環を使いこなすことで、経営力、自治力の強化を図ることができ、新たな人脈の獲得を通じたビジネスチャンス、交流の機会を得ることができる。

デジタル村民獲得の入口として、美しい村連合ファンミーティングを母体とした「DAO 準備室」を開設し、既存ファンからの村民移行を想定。そこから地域資源デジタルアートコンテスト開催による NFT 発行と、インセンティブ付与に伴う販促実施により 2023 年度に 300 人、2024 年度に 1,000 人、5 年目の 2026 年度に 5,000 人の村民獲得を目指す。

### (4-3) 社会⇄環境

KPI(広域連携SDGsモデル事業による 社会⇄環境における相乗効果等)	
指標: 美しい村参画地域数	
現在(2022年6月): 2 町村	2024 年: 30 町村

各町村における環境コンテンツやサービスなどを NFT としてデジタルスペースに展開・販売し、そのコンテンツはいつでも誰でも確認、購入することができるプラットフォームを構築する。美しい村連合加盟村の数だけコンテンツが拡大し、ネットワーク化することによる新たな産業創出やアイデア発露の温床となり、新たな社会フレームのモデルとなり得る。

特に環境コンテンツとしては、森林所有権や薪、木質ペレット購入権など、脱炭素社会への転換可能性を秘めており、各町村横展開による情報交換や更なる広域連携が期待される。

この社会モデルにおいては、NFT を発行する地域が「美しい村」連合に加盟しているという共通点を持つことから、既に加盟している地域はこの事業に参画することで「美しい村」であり続けることを目指し、非加盟地域は「美しい村」になろうとするために連合加盟を目指すという、新しい時代の幕開け＝夜明けを日本にもたらず事業である。

将来的に企業向け NFT の発行を通じた都市部企業とのパートナーシップ構築により、新たな DX(メタバース構築等)や脱炭素系技術(新エネルギー開発や実証実験フィールドの提供等)の呼び込みを狙う。

一方で、連合に加盟している多くの地域が、過疎高齢化、人口減少による担い手不足、後継者不足という課題を有しており、この状況は一過性の事業で解決できるものではない。環境をテーマとして確保されるデジタル村民(=関係人口)と地域住民との関係性を繋ぐのは、それぞれの地域の優れた資源や豊かな人間性が持つ魅力であり、NFT 購入者が得られるインセンティブにそれらの魅力に触れ、課題解決に繋がるプロジェクトに参加する権利を付与することで得られる相乗効果は計り知れない。

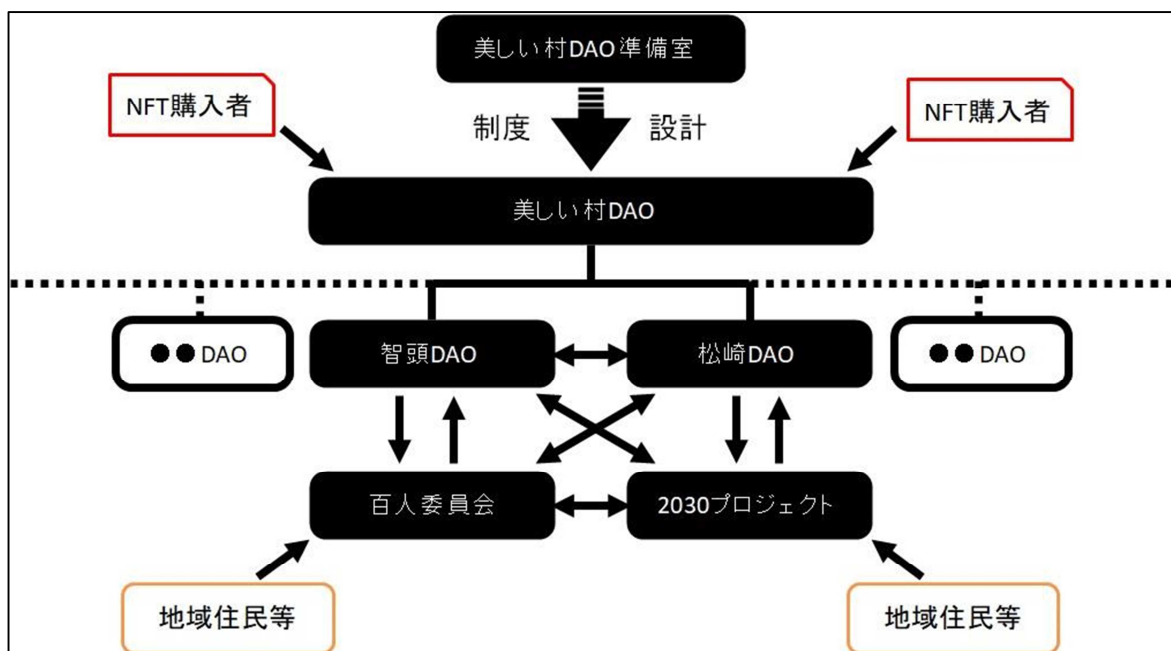
今回の取組では、2 町村からのスタートであるが、上述のデジタル村民獲得と合わせて美しい村連合加盟町村の参画数増が重要なキーポイントとなる。DAO 準備室をとおした地域課



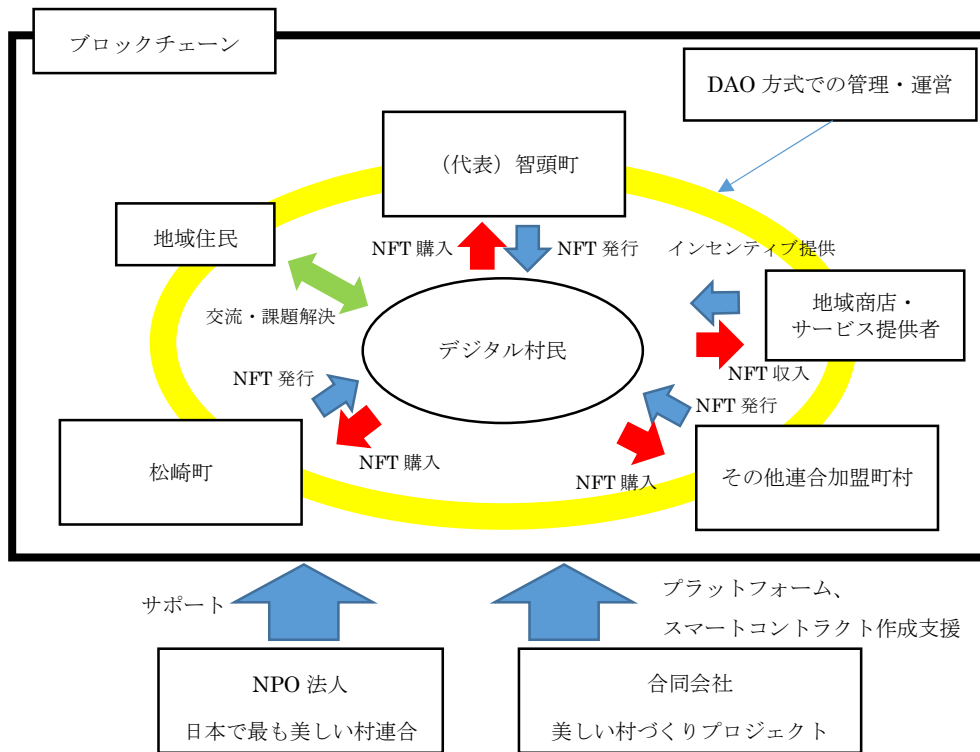
題の共有や NFT 開発・検討により、加盟町村へ参画を呼びかけ、2023 年度には 10 町村、2024 年度に 30 町村、5 年目の 2026 年度には全ての加盟町村が参画することを目指す。

そのためには、ステークホルダーである「日本で最も美しい村」連合をとおした加盟町村への情報提供や、ブロックチェーン、NFT、DAO の具体的な仕組みの可視化、本事業によってもたらされる将来像の共有が重要と考えられる。

【DAO イメージ】



## (5) 執行体制



【体制図のイメージ(例)】

「日本で最も美しい村」連合運営母体であるNPO法人と、同法人準会員である合同会社美しい村づくりプロジェクトの協力により、ブロックチェーンを使ったデジタル村民用プラットフォームとスマートコントラクトプログラムを開発する。管理、運営はDAO方式を採用し、自律分散化することで自治体の負担を軽減、各町村の特色あるコンテンツをNFTとして発行することで、独自性を確保し、魅力化を図る。賛同するデジタル村民に様々な自治体のインセンティブを提供する。

また、コンテンツの提供者である地域商店や住民、自治体との関わりを深め、実際に訪れたいくなる仕掛け作りを行うことで、人流、商流の増を図る。

NFTを購入したデジタル村民には、地域での課題解決にかかるプロジェクトへ参加する権利や、新たなプロジェクトを提案する権利を付与し、地域で活動する様々な住民やプレイヤーと繋がることを可能とする。

一方で、このプラットフォームを活用して地域住民サイドから課題のインプットを行い、デジタル村民(=外部人材)とのマッチングやパートナーシップの形成も想定される。

## (6) 多様なステークホルダーとの連携

団体・組織名等	事業における位置付け・役割
NPO 法人日本で最も美しい村連合	「日本で最も美しい村」連合運営母体
日本で最も美しい村連合加盟町村	美しい村のフィールドの提供、事業の横展開
合同会社美しい村プロジェクト	「日本で最も美しい村」連合のサポーター有志で構成されたコンソーシアム(共同事業体)
商工・観光事業所	各地域におけるコンテンツ発掘やPR
地域金融機関	決済機能提供、新規起業等への有志協力

## (7) 自律的好循環の具体化に向けた事業の実施

参画自治体が発行する NFT をデジタル村民(ファンクラブ)が購入し、収入源に充当することで、事業の自走を目指す。

また、ブロックチェーン技術による運営は、公・民及び地域の内外を問わず多くの参画者が関わることにより、一町村では思いも付かないような様々な知見を吸収、発展させ、取り組みの深化を促すと共に、相互認証、相互監視、相互互惠関係を維持することが可能であるので、美しい村が DX と融合するという新しい社会構造が、その環境を保全、維持するための取り組みと繋がることのできる手段となり得る。

そして様々な権利(サービスや資源の保有、地域プロジェクト参加等)を発行し、売買で得られる収益は地域の経済を潤わせると同時に、各地域の課題解決プロジェクトや環境保全活動への原資として充当する仕組みを想定しており、また購入者が実際にその地域へ赴きサービスを受けたり地域住民と触れ合う契機となるなどの相乗効果も期待することができるため、自律的好循環形成に最適なモデルとなり得る。

## (8)スケジュール

事業に関連する 個別の取組	2022 年度	2023 年度 (任意)	2024 年度 (任意)
デジタル村民 プラットフォーム開発	2022.9 月開発開始 → 2022.12 月開発完了  2023.1 月実験的稼働 →	2023.4 月本格稼働	プラットフォーム自走
美しい村 DAO 準備室	2022.10 月開設→制度設計 →	2023.4 月美しい村 DAO 正式組成	自走
デジタル村民募集	2022.11 月先行予約開始 → 2023.1 月実験的 NFT 売買受付開始 →	本格受付開始	自走
NFT 発行	2022.10 月 NFT 発行研修(対象:自治体、地域商店等) → 2023.1 月実験的 NFT リリース →	NFT 本格リリース	自走
プロモーション事業	2022.10 月著名アーティスト依頼(例:石谷家住宅 VR アート) → 2022.11 月地域資源デジタルアートコンペ開催 →	アートイベント継続	アートイベント継続